

I-0348



亞細亞局長

公第 七七二號

昭和五年十一月十二日

在 吉林

總領事 石 射 猪 太 郎



外務大臣男爵 幣 原 喜 重 郎 殿

南京中央大學ノ東北經濟考察團ノ來吉ニ關スル件

南京國立中央大學法學院經濟科卒業生十名(中二名ノ女子ヲ含ム)ハ  
同大學教授馬質夫引率ノ下ニ頭記團名ヲ用キ東北各省觀察ノ途夫本月  
五日吉海鐵道ニ依リ來吉シ官民ノ可成熱心ナル歡迎裡ニ各方面ノ觀察  
ヲ了シ七日出發長春經由哈爾濱ニ向ヒタルカ南方ヨリノ移民計劃滿洲

I-5.0.4-1

昭和五年十一月廿日 接

支那僑團心程返

觀察者ニ對スル便宜供與辦法ノ決定其他國民政府並ニ各省首路最近ノ  
對滿蒙關心振ハ既ニ御承知ノ通りナル處右考察團ノ組織モ國民政府ノ  
斡旋援助ニ出テタルモノノ由ニテ斯クノ如キ企劃ノ結果ハ魯ニ南方諸  
省ノ支那人ヲシテ滿洲ノ事情ニ通セシムルノミナラス心理的ニモ緊密  
ナル關係ヲ生セシムルコトナルヘク而カモ此種觀察者ハ滿洲ニ於ケ  
ル日本ノ經營發展振ニ甚大ナル注意ヲ惹カルルモノノ如キヲ以テ之ニ  
對シテハ我國トシテモ相當注意ニ値スル次第ト存ス同考察團發言中ノ  
狀況殊ニ地方有識者トノ質疑應答振ニ關シテハ左記ニ依リ御承知相成  
度何等御參考迄此段報告ス

本信寫送附先 在上海臨時代理公便

南京 北平 天津 奉天 長春

哈爾濱 齊々哈爾 海龍 間島

局子街

關東長官 朝鮮總督

BII

中央大學東北經濟考察團吉林滞在中之行動

一、觀察箇所

(イ)貨幣取引所。(ロ)煙廠(葉煙草及麻)市場。(ハ)製粉工場(ニ)燐寸工場(支那人經營)(ホ)總工務會(ヘ)支那人經營材木商店

二、總商會主催ノ歡迎會概況

席上總商會長ヨリ東北經濟金融ノ概況並ニ日本ノ經濟的侵襲ノ概況ヲ述ヘ經濟學專攻者タル各團員ノ將來ニ於ケル援助ヲ乞フ旨歡迎ノ辭ヲ述ヘタルニ對シ引導者タル馬教授ハ

「最近ノ機會ニ全國經濟學會ヲ滿洲ニ於テ開催シ經濟ノ專門家ヲシテ東北各省開發ニ關スル研討ヲ試ムルコトトシ度シ」トノ希望ヲ發表シタリ

三、總商會ニ於ケル團員ノ質問並ニ吉林有識者ノ答辯

(イ)稅制交通トノ關係如何

沈永吉縣商會座辯之ヲ解説セリ

(ロ)金融及ヒ貨幣制度狀況如何

關總商會長之ヲ解説セリ

(ハ)穀類ノ產額ト其消費狀況

王權業研究所長之ヲ解説セリ

(ニ)吉林木材ノ狀況

江工務會長之ヲ解説セリ

(ホ)燐寸業ノ沿革及ヒ外商侵襲ノ狀況

孫衆志洋火公司經理之ヲ解説セリ

(ト)商工業ノ狀況

田吉林總工會董及ヒ業同會座辯之ヲ解説セリ

(チ)商工業家ノ組織及ヒ各業研究所ノ設置

沈永吉縣商會座辯解答セリ

以上

照會書

第一課

昭和七年七月拾五日接受

普通第三三七號

昭和七年六月三十日

在南京

總領事代理 上村 伸 一



外務大臣 子爵齋藤 實 殿

中央大學解散ニ關スル件

竊ニ中央大學ニ於テハ校長桂崇基排斥殴打事件發生後教育部政務次長段錫朋ハ之カ解決策トシテ責任ヲ以テ政黨色彩ナク學識閱歷ニ富ム適任者ヲ物色スヘント言明シ一ト先ツ開講ノ運ヒトナリ他方學生側ハ學生大會ノ決議ヲ以テ任鴻熊外二名ヲ推舉シ其中ヨリ一名ヲ校

I. 1. 5. 0. 4 - 1

長ニ任命方政府ニ呈請セルニヨリ國民政府内ニ於テモ同校校長問題ニ關シ種々紛擾ヲ重ネタル處本年一月二十六日行政院會議ノ議決ニヨリ任鴻熊校長ニ任命セシカ任ハ遲々トシテ來任セス不巳得四月二十一日法學院長劉光華ヲシテ任校長ノ着任迄校務ヲ代理セシムル事ニ決シタル處最近ニ到リ任校長ハ辭職ヲ電請シ來リ他面劉代理校長モ堅ク辭意ヲ申出テタルヲ以テ六月二十八日院議ニヨリ夫々辭職ヲ許可シ別ニ適任者ヲ物色スル事トセシモ適々書中休暇モ近付キ勞年試驗新入生募集等ノ爲一日モ校長缺員ノ儘放置シ難キヲ理由トシ教育部政務次長段錫朋ヲシテ暫時校長事務ヲ代行セシムル事ニ決セリ

右ニ關シ政府ノ措置並段力過般ノ言明ニ違反シタル事等ニ激昂セル學生側ハ二十九日朝段カ登校事務引繼ヲナセル模様ヲ知ルヤ一

中日英...



面反對大會ヲ開クト同時ニ一面數十名ノ學生校長室ニ殺到シ段  
ヲ引連出シ校庭ニ於テ包圍亂打ノ暴行ヲ爲シ遂ニ負傷セシムル  
ニ至レリ茲ニ於テ同日正午中央政治會議開催セラレ席上朱教育  
部長ハ右ノ次第ヲ報告シ引責辭職方ヲ發表シタルカ學生ノ越軌  
行動ニ對シテハ行政院ニ命シ嚴重ナル處置ヲナス事ニ決議セリ  
行政院ハ政治會議ノ命ニヨリ同日臨時會議ヲ開キ(一)主務官廳ニ  
嚴命シ暴行學生ハ法ニ依リ懲辦セシムルト共ニ上海ニ在ル中央  
大學ノ商科及醫科ヲ除ク外當地ニアル各分科大學ハ暫時解散シ  
徹底調査ノ上整理スル事(二)朱部長ノ辭職案ハ之ヲ慰留スル事ノ  
二項ヲ決議シ汪院長各部長等連名ヲ以テ即日發表セリ  
他方七百餘名ノ學生ハ全體大會ヲ開催シ段ノ代理校長ニ反對シ

教務長查識ヲシテ校務ヲ代行セシムル事校長問題未解決ノ間學年  
試験ノ暫時延期方ヲ請願スル事  
經費獨立運動委員會ヲ改組シ別ニ學校擁護委員會ヲ組織シ實行ニ  
當ル事其他段排斥理由ノ宣言發表、政客官僚校長タルコトニ反對  
ス等ノ決議ヲナセル趣ナリ  
右何等御參考迄報告ス

本信寫送付先 在 文公使 北平 上海 天津  
廣 東 青島 漢口 濟南  
奉 天

I-0348

調査局第二課長

調査局第二課長

調査局第二課長

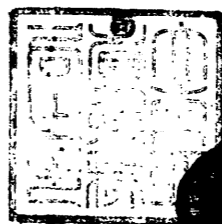
調査局第二課長

第二三四號

昭和十八年五月二十二日

外務省調査局 御中

大東亞省總務



「中央大學學生思想動向」送付ノ件  
在東京大使館ヨリ報告アリタル別添「中央大學學生思想動向」御参

送付ス

大東亞省

(標準2102) (日本標準規格 B5)

I-0348



中央大學學生思想動向

南京日本大使館

岡田 光

外務省調査局長

# 大東亞省總務局總務課

一、筆者ハ東亞同文書院東北帝國大學出身ノ官補書記生ニシテ客年十一月以來中央大學學生トシテ法商學院ニテ聽講中ノ者ナリ故ニソノ  
 二、茶禮微ニ觸レテ真相ヲ剔抉セル所多ク各地些少ノ差アリトハ云ヘ  
 三、此青年層思想ノ大概ヲ窺知スルニ足ル由ツテ文化擔當者會議ニ當  
 四、リ參考資料トシテ附印配布ス

昭和十八年三月

南京大使館 文化部

I-0348

中央大學學生思想動向報告

一、緒言

二、支那參戰ニ對スル感想

- イ、世界戦争ト日本ノ再認識
- ロ、主席ノ渡日前後ト學生ノ思想
- ハ、現在學生思想批判

三、對重慶政權汪政權感

- イ、對重慶及ソノ「戦争」感
- ロ、中國共產黨ヘノ共鳴程度
- ハ、汪政權ヘノ理解方法
- ニ、政府、社會ヘノ不滿

四、日本ニ對スル信用

- イ、大陸政策ノ懷疑
- ロ、現代學生對日思潮
- ハ、支那參戰後ノ對日感ノ變化

五、結論

指導對策

一、思想善導方策

- イ、方策ノ理論的「ポイント」
- ロ、具體的方策

二、生活指導方策



中央大學學生思想動向報告

一、緒言

支那社會ニ於ケル學生層ノ地位ハ過去ノ諸「愛國運動」ノ歴史ニ照スルニテモナク、常ニ知識階級ノ先鋒トシテ、社會運動指導ノ立場ヲ維持シ來タルコトハ明白ナリ。

然ラハ和平地區内ノ學生、殊ニソノ中心地南京ノ國立中央大學生ハ、和平運動ノ文化的指導的役割ヲ如何ニ實踐シツアルカ、或ヒハ學生ノ時局感如何等ヲ調査スルコトハ現下一般民衆思想ノ指南ナル中國知識份子ノ思想動向ヲ知ルコトニ他ナラス。

戰後大學學生ノ指導的立場ノ轉移ヲ云々スル者アルモ「民衆思想」

「中國學生」「中大週刊」「炬火」「野草」「新動向」等々ノ言論發表機關ヲ自有シ、「新東方」「作家」及中華民國日報上ノ文藝欄ノ獨占的ヲ執筆狀況及話劇、音樂團ヲ通シテノ民衆教化等ヲ見レハ、未タニ中國文化ノ總體的「レヴェル」ハ低下セルモ學生層ノ相對的役割、文化指導性ハ決シテ變動アリタルト覺ヘサル所ナリ。而モ此ノ諸傾向ハ次代形成過程ヘノ重大指唆ヲ含ムモノニシテ汪兆銘ノ和平運動ノ思想尖兵トシテノ知識層獲得ノ問題ハ和平運動ノ前途ヲトスルモノト云フヘシ。

以下略述スル所ハ報告者ノ四ヶ月間ノ學生トノ生活ノ中ニ於テ、諸機關紙、教室、討論會、友人トノ質疑應答等ニ於テ不知不覺ノ中ニ與ヘラレタル印象ヲ報告スルニ止マリ或ヒハ主觀的、獨斷的タル結

論ヲ生セル所ナキニシモアラサランコトヲ恐ルモ、少クトモ表面ニ  
發表セラレサル知識層ノ時局感ノ一部ヲ率直ニ吐露セル言説タルコ  
トハ明白ナリ。尙報告書ノ性質上日本ニ不利ナル思想動向ニ特ニ重  
點ヲ置キタルニトヲ前言セサル可カラス。

## 二、支那參戰ニ對スル感想

凡ソ、世界戦争ノ原因ヲ民族的利己主義ノ所産ナリトスル所説ハ學  
界ノ通説トス所ニシテ、コノ點、吾國ノ民族主義運動ニ一脈運ト  
ル事ヲ見出ス。故ニ日本ノ「敗戰」ニ歸シテハ多ク語ラント雖、獨  
ノ敗戰及他國ノ現状ニ關シテ特別ノ興味ヲ有シ、世界戦争ノ結末ハ  
極軸側ノ勝利ニ歸スルカ如キ確信ハ少ナキカ如シ。殊ニ日本ノ敗戰  
ニ對スル戰團上ノ勝利ハ率直ニ之ヲ認メ居ルモ米露ハ豐富ナル實

シ組織員シテ必ラス對日反攻ヲナスナラント歐米物質文明ヲ迷信ノ  
後述ノ如ク重慶モ迷ニハ決シテ滅亡スルコトナシト豫想ス。要スル  
ニ大東亞戦争勃發前後ノ極端ナル民心動搖ニ比シテ、今日ニ於テハ  
日本ノ軍事力ニ關シテハ相當ノ信頼ヲ置クモ日本ノ戰爭目的ニ關シ  
テハ理解セントスル者サヘナキハ卑屈ナル戰敗民族ノ感情的世界觀  
ノ致ス所ナランカ。

斯ク大部分ノ學生ハ東亞共榮圈理念ヘノ哲學的情念ハ勿論、理論構  
成ニモ多ク「關係ナシ」ナルカタメニ、支那ノ參戰ノ意義ニ關シテ  
モ一應新聞紙、宣傳物ニ依ル宣傳ニテ「同甘共苦」「同生共死」ト  
ハ云フモ、ソノ目的カ「中國解放」ニアルコトヲ衷心ヨリ説ク者ハ  
全ク稀ナリ。而シテ大多數ノ學生ハ支那ノ參戰ハ不平等條約撤廢ト

ノ交換條件ニヨリ日本ニ強要セラレタルモノナリトシ、後者ヲ汪主席ノ政治的手腕ニ歸スルカ如キ觀察ヲナシ居レリ。  
昨年未、主席ノ訪日ヲ契機トシテ起レル參戰及之ノ結果トシテノ徵兵ニ關スル議論ニ於テハ鼻モ露骨ニ學生ノ思想ヲ窺ヒ得タルモノニシテ、教室、宿舍、集會、全コル場所ニ於テ參戰乃至徵兵恐怖ノ所論ヲ聞ケリ、評說ノ歸趨ハ「主席ハ和平ヲ唱導セルニ故ニ吾々各地ヨリ集リ來タルナリ、然ルニ今、主席カ參戰ヲストセハ、吾々ノ主席ニ從フ理由立たス」、或ヒノ「軍人トナルヨリ農夫トナルニ如カス」トノ見解ヲトルモノ多ク、殊ニ全面和平ト大東亞戰ノ關係ヲ「全面和平ハ支那解放ノ前提ニシテ決シテ大東亞戰ニ參戰セル後初メテ全面和平カ實現セラルトイフモノテハナイ」ト理解スル思潮

ハ學生間ヲ支配スル根本的思想ト考ヘラレタリ。

一月九日國民大會堂ニ行ハレタル首都民衆大會ニ於ケル學生ノ出席率カ望外ニ良カリシハ主席ノ參戰理論ヲ傍觀者の興味ヲ以テ聞カントセルニ外ナラス、會場ニ於ケル學生ノ態度ハ頗ル傍觀的タリシコトハ中央軍官學校、警官學校學生ノ熱烈ナル拍手ニ比シテ拍手ヲ送レル者皆無タル事實ニヨリテモ明白タリ。歸校後ノ學生間禁ニ理ニ學院、農學院學生ニハヤヤ主席ノ評說ニ從フカ如キモノアリタルカ如キモ、政府ノ政策ナレハ批難スヘキニ非ラストノ消極的立場カ大部分ヲ占ム。(註、北支及南支ノ學生ハ相當程度ニ參戰ヲ擁護シ居レルニ不拘、中支學生ノ大部分ハ反戰的ナリ。)

斯ク理論的世界觀的立場ノ不同ヨリ起ル學生ノカカル傍觀者の空氣

ハ第二ニハ更ニ經濟的生活ノ困難ノ豫兆ニ基キ全ク反戰的ナル空氣  
ニナリタリ。支那社會ニ於ケル學生ハ既ニ社會構成ノ一單位ナル現  
象カココニモ窺ヘル所ニシテ自己ノ經濟的問題ノ解決ヲ理論構成ノ  
結論決定ノ大因トスル所ハ日本學生等ノ想像タニセサル所ナリ。  
然ルニコノ風潮ニ答ヘテカ一月下旬、周佛海ノナセル「參戰釋義」  
ヲ放送ハ學生間ニ相當ノ影響ヲ與ヘ、殊ニ、放送中ノ七題「解釋中  
」「壯丁ヲ徵用セス」ノ聲明「參戰後壯丁ヲ徵用スヘシト考フル人ア  
ランモ斯様ナコトヲ顧慮スル必要ハナイ」(中報一月十六日記載)  
ニハ絶讚ヲ與ヘ居リ、以後學生ノ中ニハ討論會等ニ於テモ「支那ハ  
東亞ノ一翼テアル東亞有ツテ初メテ支那有リ若シ支那ヲ救ハントセ  
ハ吾人ハ東亞ヲ保衛スヘキテアル」ナル主席ノ言論ヲ引用スル學生

モ散見スルニ至レリ、即チ戰爭カ自己ノ生活ニ直接影響ナキヲ知レ  
ルヤソノ理論ヲ容易ニ變更スルニ齎ナラサルコノ事實ハ參戰反對論  
ノ理論的根據ヲ裏書キスル實證タリ。

### 三、對重慶政權汪政權感

最高學年學生ハ日支事變カ勃發セル當時、高中三年乃至初中三年當  
時ナルタメ戰時以前ノ政治經濟社會文化ノ諸狀態ヲ知り居レルタメ  
目下ノ和平區内ニ於ケル政治、經濟、社會各部門ニ於ケル混亂狀態  
ヲ自認スルト同時ニ、他民族(殊ニ日本人)ニ比シテモ決シテ民族  
的ニ劣ルナキヲ實證シ、自慰センカタメ蔣政權下ノ「善政」ヲ反比  
例的ニ過大評價スル傾向強シ。

蔣介石ノ行ヘル抗日策ニ對シテハ白紙ナリ。寧ロ一部學生(約三

割程度ニシテ親日的ト考ヘラルルモノハ抗日政策ハ誤レル政策ナルコトハ自認スルカ如キナルモソレハ西安事變以後共產黨ニ依リ強制サレタル政策ナリト理解ス。故ニソレ等ノ學生ト雖モ蔣介石自體ヘノ不信任ハナク、共產黨ヘノ憎悪感ヲ有スルノミ。

其ノ他七割ノ學生ノ「抗日」ニ對スル感想ハ否定ニ非ス、肯定ニ非ス、微妙ナルモノアリ。然シナカラ少ナクトモ蔣介石ニ對スル個人的信仰ハ絶對的ノモノニシテ其ノ内約五割ノ學生ハ「抗日」ニ關シテ心中貧怠ヲ有スルモノト考ヘラル。ソノ一例トシテ左ニ中大學生二十二期ニ特別「ゴチツク」活字ヲ掲ラレタル「戦争」ナル「會話文」ノ一部ヲ掲ケル。同文ハ略々彼等ノ思想ヲ代表スルモノナルヘシ。

戦争

「子供ト母親ノ對話」 艾郷

子供 母ちゃん！ドウシテ今日ハ電燈ガ急ニ消エタノ？

母親 防空だよ

子供 どうシテ防空スルノ？大空ハ普段ト一寸モ變ツテキナイジヤ

ナイノ？

母親 大空デハナイヨ、空襲ヲ防グノだよ

子供 母ちゃん！本當ニ判ラナイ、空襲ツテ何ヨ？

母親 空襲ハネ、敵ノ飛行機カヤツテ來テ自分達ノ領土ニ爆彈ヲ投

下スルニトサ

子供 敵トイフノハ誰サ？

母親 外人ヲ、我國ト戰爭シテキル人タヨ  
 子供 戦争シテ尙又空襲マデナゼヤルノ？  
 母親 空襲スルト銃後住民ノ治安ヲ攪亂スルニトガ出來ルカラ  
 子供 母チャン！銃後ノ人々ハ何事モナク日ヲ送ツテ居ルノニナゼ  
 敵ハ攪亂スルノ

母親 銃後ノ人々が不安ニナルト前線デハ立派ニ戦争ガ出來ナイノ  
 タヨ

子供 ア、其レデハ防空スルト飛行機ハ飛來出來ナイノ？  
 母親 自分達が防備スレバ飛行機ハ來ラレナイヨ、判ツタカネ  
 子供 判ラナイヨ、母チャン、飛行機ナンカ來ナイ方が好イデナイ

母親 戦争ダモノ  
 子供 戦争ナラ飛行機ハ來ルノ？  
 母親 ウン！  
 子供 其レジャ、ナゼ戦争スルノ？  
 母親 各自分ノ國家ノ領土、主權、自由ノ爲メニサ  
 子供 皆ソシナノ？  
 母親 戦争スルコトニハ斯様ナコトモアルヨ  
 子供 其レデハソレデ自分達ハソノ人達ト親交シナケレバヨイネ  
 母親 ソレデ彼等ハオ前線ト戦争スルノダヨ  
 子供 ドウシテ？  
 母親 、、、、、

子供 母ちゃん。戦争ハ終ルカシラ？

母親 ソラ終ル。戦争ハ長イ云イハアルガ、戦ハナイ日ハアルヨ

子供 假リニ彼ノ惡イ方ガ勝利ヲ得タラドウ？

母親 (泣キツツ) 自分達ハ總テ彼等ノ言フコトヲ聽カネバナラヌ

子供 ドウシテ悪イ人ノ言フコトヲ聽カネバナラナイノ？

母親 (慟哭シテ) ナサネ！彼等ガ戦ニ勝ツタノダカラ

子供 (母ノ襟ヲ握ク引イテ) 母ちゃん！自分達ハ彼等カラ離レタラ

ミイネ

母親 其ノ時コソ彼等ハ無理ニ離サヌ様ニスルダロウ

子供 (突然希望ニ滿チ) 母ちゃん！若シ正當ナ方カ勝ツタラ？

母親 (子供ノ頭ヲ撫デテ) 其ノ時ハ自分達ハ自由トナルサ

子供 ソレテハ自分達ドウシテモ勝タネバナラヌ

母親 ソウダ、ソウダ

子供 父サンハ？

母親 戦争ニ行ツタヨ

子供 戦争ニ行ツタノ？

母親 祖國ノ領土、自由ノ爲メニナサレテ父サンハコン風ニシテ戦争ニ行ツタ

子供 (憂鬱サウニ) 父ハ戦死シナイカシラ？

母親 (口ヲトガラシテ) ソンナ縁起ノ惡イコトヲ云フザヤナイヨ

子供 父ハ何時頃歸ツテ來ルノ？

母親 敵ヲ負カシタラスグ歸ルヨ

ト戦争シテキル人」ノ「我國」ハ支那ヲ指スハ明白ニシテ而モ「外  
 國人」ヲ如何ニ解スルヤハ明白ナリ。夫ヲ戰線ニ送り留守ヲ守ル妻  
 ト其ノ子ノ間ノ「戦争ハ祖國ノ領土主權自由ノ爲ニ戦ハレタルモ敗  
 戦ノ日ニハ強制的居住服従ヲ要求セラレル」トノ涙ノ教訓ハ果シテ  
 何ヲ意味セルヤ。此ニ於テ一般的學生ノ日本觀乃至戦争觀ハ明白ニ  
 シテ現實ニ於ケル戦敗ノ悲哀ト抗戦ノ意氣ニ燃ユル過去ノ若キ中國  
 青年層ノ自己撞着ノ姿カ歴然タルヲ覺ユルナリ。  
 扱テ、斯カル民族感情ニ對シ主席ニ對スル信頼モ相當強度ナルタメ

子供 敵ハドウシタラ貰カネトガ出來ルノ？  
 母親 戦死者ガ多ケレバ敗レルヨ  
 子供 父ハドウシテキルカシラ？  
 母親 運者ダヨ  
 子供 敵方ノ父ハ？  
 母親 死ンダ  
 子供 ソレテハ敵側ノ子供ハヤハリ泣クンダロウネ？  
 母親 今夜ハドウシテ當テモナノコトヲ言フノ、飛行機ガ來ルヨ、  
 早く部屋ヘオ入り  
 子供 母ちゃん！人トイフモノハドウシテ戦争スルノ？  
 母親 モウ暗クナツタカラ、早く入りナサイ

右一又、滿洲國出身學生ノ草セルモノニシテナキ學生ニ莫大ナル共  
 鳴ヲ得タルモノニシテ日本ノ對滿支政策ノ彼等ニ與ヘ居ル影響ノ實  
 相シ餘ス所ナク言ハ盡セルモノト言フヘシ。右文中「外國人、我國



手段こそ異レ共ニ「救國」ヲ目的トスルモノトシテ汪蔣合作ノ所説  
ハ學生ノ最も歓迎スル所ナリ。之カ可能性ヲアツテハ四割學生ハ汪  
蔣ノ感情問題、面子等ノ點ヨリ否認シ、六割學生ハ國民革命以來ノ  
歴史ニ照シテ可能ナリト斷言ス。

中國共產黨ニ對シテハ抗日政策ニ白紙ナル七割程度ノ學生ハ同様ニ  
白紙ナルモ、共產主義、社會主義ノ諸理論ヲ研究シ居ル者ハ殆ント  
見ス、單ナル常識ヲ有スルノミ。然シ「ロシア」ノ現状ヲ知ラント  
スル傾向強ク、法商學院政治組三年「中國政府及政治」及二年半以  
前ノト愈「經濟原論」ノ講座ニ於テ學生ハ特ニ教授ニソノ内容ノ講  
義ヲランコトヲ要求シ居レリ、思フニ中國共產黨ヘノ共鳴ハ現實ノ  
生活難ノ解決策乃至ハ流弊ノ生活難及漠然タル中共ヘノ興味ヨリ

起レルモノニシテ知識分子ト雖モ眞ニ共產主義學說ヲ解明シテ之ニ  
共鳴セル者ハ少シ。

日支戦争ノ結末カ何レノ勝利ニ歸スルヤニ關シテハ明確ニ日本側ノ  
勝利ニ歸スルト斷言セル者ナシ。此ノ點「共ニ敗レ俱ニ傷ク」「日  
本無ケレハ中國ナシ」「中國無ケレハ日本ナシ」ナル「スローガン」  
カ餘リニモ叫ハレタル結果トシテ日本ハ戦争ニ於テモ政治ニ於テモ  
重慶ヲ滅亡シ得サルモノトノ牢固ナル信念ヲ有セルニ至レルハ今後  
ノ宣傳工作ニ一考ヲ要スヘキ所ナリ。事變以前ヨリアリタル「蛇ハ  
象ヲ吞ムコトハ出來ヌ」ナル言モ屢々用ヒ居レリ。

汪兆銘ヘノ理解ハ三方面ヨリ觀察サレ、一ハ完全ナル傀儡政府トシ  
テ、他ハ蔣政權ノ抗戰ヲ以テ日本ノ侵略ニ對抗スルニ反シ、汪政權

ハ和平政策ヲ以テスルニアリトスルモノニシテ、三ハ東亞ノ歴史的  
共同體意識ニ覺醒セルニヨツテ樹立セラレタルモノトスル見解ナリ。  
大多數ノ學生ハ深刻ナル經驗ニヨル民族的感情ト自己生命ノ合理的  
打算乃至理性ニ依リ第二ノ思想ヲ持ツカ如キナリ。

支那復興ノ前途ハ已ニ極メテ判然ト維持セラルルコトカ現ハレテ來  
タ。何等躊躇スル所少シ、只邁進アルノミナリ。如何ナル難關ニ逢  
ダスルトモ打破セネハナラス、ソノ時ニ到ラハ如何ナル勢力ト雖モ  
吾人ノ發展ヲ阻止スルコトハ出來ヌ。、、、（中略）、、、吾人  
更ニ自己國家ノ現状ヲ顧ミル時吾人ノ力量カ決シテ薄弱ナラサル  
トカ證明出來ル。一部青年同胞ヨ、心血、鐵血ヲ傾注シ落膽セス、  
、、、ラス、妥協セス、支那復興ノ爲メニ努力セヨ（中大學生廿二期卷

首語「祖國ノ爲ニ微笑シテ」

右ノ一文ハ和平政府ヲ率直ニ承認セルモノナルモ、而モソノ解釋ハ  
第二ノ思想ニ屬スルモノニシテ「不妥協」トハ果シテ何ヲ意味セル  
ヤ。前掲セル「戦争」ノ一文ト共ニ現代和平區内知識分子ノ二大思  
潮ヲ代表シ得ルモノナリ。斯クテハ自己ノ「不妥協」ヲ強調スル内  
心作用ニ逆比例シテ強烈ニ維新政府ノ傀儡政府タルコトヲ罵リ、前  
維新政府構成員ヲ所謂「賣親日專家」トシテ侮視シ居レリ。  
然ルニ汪主席ノ人格清廉ナル點ニハ學生均シク尊敬スル所ニシテ更  
ニソノ和平政策ニハ絶讚ヲ拍スモ親日政策ニ關シテハ全く白紙状態  
ナリ。凡ソ一見抗日、親日ナル概念ハナキカ如キニ見エ、日本ノ對  
支政策ニ依リ支那民衆ノ對日感情ハ變化スト唱フルナリ。即チ周佛

海ノ「條約ヲ履行セサレハ吾人ハ實行セヌ」ノ精神ハ單ニ政府要人  
 間ノミナラス和平地區内ノ知識分子ノ一般的傾向ト考ヘラル。周佛  
 海言論集（民國卅年六月中報發行）ハ學生ノ比較的愛讀セルモノニ  
 シテ、「回憶與前瞻」「關於組織中央政府」ノ二篇ハ特ニ學生ノ愛  
 讀スル所ニシテ「實行ノ自由ハ或ハ充分ナラス、不實行ノ自由ハ吾  
 人ニ充分アリ」（關於組織中央政府）ナル思想ハ知識人ノ普遍的ナ  
 ル對日處世觀ナリ。即チ和平ハ救國ノ手段デアアル。救國コソ彼等ノ  
 唯一ノ目的ニシテ抗戰、和平ノ目的ハ同一デアアル。ココニ抗戰ハ抗  
 日ナルモ和平ハ必シモ親日ヲ意味セストノ結論ニ至ルコトヲ考ヘサ  
 ル可ラス。即チ和平ヲ單ナル戰爭狀態ノ終結ナリトスル考ヘ方ニシ  
 テコノ狀態ノ下ニ於テ日本勢力ノ退却ヲ要求スルナリト稱ス。

以上ハ主席ノ和平運動ニ對スル學生ノ見解ナリ。

次ニ和平政府ニ對スル學生ノ見解ヲ官僚組織、清鄉工作、行政等ノ  
 角度カラ眺メル。

支那社會ノ特性タル「ネボタイズム」ハ事變後ノ政府組織ニ於テモ  
 強烈ニ現ハレ優劣ナル學生ト雖モ後台ナキ者ハ希望ナク高等試験ノ  
 如キモ全ク有名無實「一ノ證明ハ「バック」アルニ如カス」トシテ  
 學生中受験者僅カニ六名、而モ成績半ナル者ナレトモ五名合格ノ有  
 様ナリ。斯クテ一介ノ窮乏蛋ハ往々ニシテ「聽大由命」ノ嘆聲ヲ發  
 シ居リ學問ヨリモ社交ニ、試験ヨリモ後台ニト、純乎タルヘキ學生  
 社會カ全ク墮落シ居レリ。學生間ニ「交際上手」ナル流行言アルニ  
 アリテモ明白ナリ。之ヲ後台政治ト云フ。斯カル程度ハ官費留日學

生派遣ニモ影響ヲ及ボシ、要人ノ子息乃至何等カノ後台アル者ニ非レハ成績ノ如何ニ不拘留學不能ノ狀況ニシテ、學生ノ自棄的ナル不勉強ノ一因ハココニアリ。阿片戰爭以來歐米帝國主義侵略ト國內腐敗ニ惱メル民國カ留日學生ノ明治維新ニ依ル則戦ニ依リテ血ノ建設ヲ完遂サレタルコトニ思ヒヲ致シ、今、世界維新ノ秋果シテ留日學生ニ血ノ和平革命ヲ斷行スルノ情熱アリヤ否ヤ、將マタ日本ノコレカ指導如何。對支文化政策ニ大ナル重點ヲ要求スヘキハココノ點ナリ。更ニ政府要人ノ貪官汚吏派リヲ何處カラヨリ探知シ來タリ、之ニ對シテ學生内ニ惡評スル者極メテ多シ。支那學生ハ既ニ學生ニ非スシテ社會構成ノ一員タルコトハ屢述セル如クナルモ收賄、買溜（特ニ食糧）、女色等ノ方面ニ於テ縷述シ得サルカ如キ詳細ナル消息ヲ知

リ居レリ。

斯クノ如キ學生ノ傾向ヲ刊行物ニ實證ヲ求ムルナラハ一般學生ハ實際問題ニ對スルヨリモ更ニ人生觀、社會的忿滿ニ對シテ多クノ關心ヲ有スルカ如ク、機關紙「中大學生」（十八、十九、廿、廿一、廿二期）ヲ見ルモ青年問題及人生雜感隨筆カ大部分ニシテ（四六篇）時局問題ハ九篇、自然科學ニ關スルモノ七篇、經濟問題ハ僅カニ一篇ナルヲ見テモ明白ナリ。

其ノ内容ヲ總觀スルニ如何ナル學生ト雖モ現在ノ社會秩序ニ満足スル者ハ一人ト雖モナク、社會ノ滔々タル金權後台政治ヲ打破セントシテ打破シ得サル現代學生ノ苦衷ハ次ノ一文ニ明白ニ書キ表ハサレテ居ル。

總有ユル苦痛ヲ受ケ總テノ困難ヲ耐エ忍ヒテ茲ノ處自分遑ハ強固ナル地步ヲ把握セリ。吾カ祖國ノ爲メニ何時何處ニ於テモ嚴密ナル組織ノ下ニ刻苦訓練ヲ望ム。是ハ吾人ノ自發的要求ニシテ良心的叫ナリ但シ種々ノ本質ヲ發揮整備シ歴史的任务ヲ完遂スル爲メニ吾人ハ眞摯ナル叫ヒヲ續ケタリ。國及種族ヲ滅亡スル淫蕩墮落ノ畸形社會現象ヲ芟除スヘシ、吾人ハ公平而モ合理的苦痛ヲ嘗ムルコトヲ要求ス、然ラハ粉骨碎身スルモ愉快ナリ、奮發セン、(中大學生廿一期卷頭詞「吾人ノ叫ヒ」)

或ヒハ曰ク

吾人ハ何故ニ世界ニ生存スルヤ？享樂ノ爲メカ？否然ラス！人類社會ノ幸福ノ爲メナリ。欣然トシテ人生ノ服務ヲ抱ク目的ナリ。

吾人ノ對社會ノ責任ハ何カ？勿論「改造」ナリ。(中大學生廿一期青年の人生觀)

右ヲ以テ觀スルニ和平區ニ於ケル現代中國青年ノ理想ハ抗日ニ非ス親日ニ非ス國內革新ニ在リト斷シ得ル。勿論對外的民族開放ノ象トシテ後述ノ如ク日本ニ對スル種々ノ感情ハアランモ、ソレヨモ更ニ切實ニ自己ニ呼ビ掛クル情熱ハ國內革新ニ非ルヤ。此ノ中國青年ノ情熱ニ答ヘルコトカ内面指導即中國青年把握ノ根幹タラサ可ラス。後述ノ如ク國民政府ニ對スル不信ノ挽回策ハ之ヲ措イテナシ。

以上ニ依ツテ見ルニ後台政治カ個人關係ヨリ國家公黨タル黨關係還元セラレタルトキ初メテ明朗ナル社會、學園カ實現スルトモ老

ラレ得ヘキナリ。蔣政權下ノ國民黨ノ公的性格ト同時代ノ學生精神トヲ比較スルナラハコノ理論ハ明白タル事ナリ、故ニ學生層ヲ單獨ニ對象トシテ之ヲ純化セシムル方策ハ當ヲ得タルモノニ非スト考ヘラル。

更ニ清郷工作ノ結果ニ對シテハ大部分ハ失敗ナリト批判ス。主席ノ言ヲ俟ツ迄モナク「清郷工作ノ成否ハ全面和平ノ鍵ナリ」テアル。政策自體ニ關シテハ如何ナル學生モ反對スル者ナカリシト雖モ之カ實行ニ當ル官吏ノ貧官タルニ依リテ所謂樂土建設ヲ不可能タラシムタリトス。「官吏ハ清郷ニ於テ商賣ス」「清郷ハ即チ清箱ナリ」ル巷言ハ單ナル巷言トシテ看過シ得サル政治的性格ヲ有スルモノト解セサル可ラス。

更ニハ憲兵隊ノ使用スル華人密偵及通敵ノ腐敗ニ關シテハ言語ニ絶スルモノアリトシ、贈賄スルニ非レハ、通敵、共匪等ノ事實ヲ捏造シテ報告スル故ニ、眞ノ重慶分子ハ一名モ逮捕サレズ、善良ナル中産階級者流ノ吸血者ナル事實（例ヘハ下關憲兵隊使用ノ浦口西部集密偵等）ヲ屢々訴ヘル者アリ。斯クテ一般學生ノ和平軍ニ對スル恐怖程度ハ豫想外ノモノアリ。

## 四、日本ニ對スル信用

前述セル如ク、現大學學生ハ大部分事變當初、既ニ中學上級ニ在學セル者ナルタメ、日本ノ對支政策ニ關シテ有スル「侵略」ノ偏見ハ牢固タルモノアリ。殊ニ田中大將ノ「大陸政策」ナルモノヲ未タニ信用スル者多シ。更ニ日本政策ニ對スル支配的ナル思潮ハ日本近時對支政策ヲ全ク異質ナル三段階ニ分析シテ思考シ、第一期ヲ田中大陸政策、第二期ヲ近衛政策、第三期ヲ東條政策ナリトス。近衛政策ニ對シテハ所謂三原則ニ依ル支那主權尊重等々ヲ高く評價シ近衛政策ニハ對支侵略ノ意圖ナシトシテ、主席トノ私的交遊、文人の性格ヲ唱ヘテ中日合作可能ヲ説クモ、東條首相ヲ武人政治家トシテ首相ノ登臺ニヨリ對支政策ハ「支那侵略」ニ一變セルカ如ク考フル學生

大部分ナリ。

斯クノ如キ學生間ノ空氣ノ間ニアリテ民國三十二年一月十一日、支那參戰ノ翌々日樊校長ノ紹介ニ依リ現法制局局長胡蘭成ノナセル「中國與日本」ナル講演ハ學生思想ニ甚大ナル影響ヲ與ヘタリ其ノ内容トスル所ハ「日本ハ絕對ニ支那ヲ滅スコトハ出來ヌ」ヲ日支事變開始ヨリ現在マテ不變ノ確信ナリトシ、ソノ理由トシ

日本ハ何故ニ支那ヲ滅シ得サルヤ? 現在ノ國際情勢下ニ於テハ或ル國家ヲ滅亡セントセハ色々複雑ナル問題カ發生スヘキハ必定ナレハナリ曾テ英國カ印度ヲ滅亡セル當時日本カ若シ現在ノ如キ強大ナル國力ヲ有シ居タランニハ日本ハ中國ヲ滅亡セントセハ容易ナルコトナリ併シ斯様ナル時期ハ已ニ過去ノ事ナリ今ヤ中國ハ絶

對ニ滅亡セラレス英國カ印度ヲ滅亡セル時國際間ノ均勢ハ尙未タ  
造成セラレサリシ爲偉大ナル力量ヲ有スルモノカ之ニ對抗スルコ  
トモナク他國家ノ牽制モナカリキ隨ツテ現在ノ如ク重大ナルコト  
モナク英國ノ印度滅亡ハ比較的容易ナリキ併シ國際間カ均勢トナ  
リタル後ニ於テハ他國家ヲ滅亡セントスルモ色々面倒ナリ

右ノ如キ思想ハ滿洲事變（一九、一八）當初ノ支那當局者ノ有セル對  
日感情聯盟ニヨリ制裁觀ニシテ、未タニコノ思想ヲ講スルトハ如何  
ナル理由ナリヤ更ニ胡氏ノ思想ニヨル世界戰爭ノ見透シニツイテハ  
歐洲戰爭カ未タ解決セスソノ勝敗尙未定ナルトキ「デンマーク」  
「オランダ」ハ亡國トナリ得ルヤ？最後ノ決定ヲ俟タネハナラヌ  
然ルカ故ニ中國ハ征服セラレス歐洲大戰乃至太平洋戰爭カ發生ス

ルト否トニ拘ハラズ此種ノ理由ハ改變シ得ス人或ハ言フ日本ハ此  
ノ時若シ太平洋戰爭ヲ停頓セシメ先ツ兵ヲ進メテ重慶ヲ征服シ武力  
ヲ以テ日支事變ヲ解決セハ簡單ナラスヤト。——併シ事實上可能  
ナリヤ？吾人ハ決シテ出來スト豫想ス  
トシ、全面和平、大東亞戰爭解決ノ一段階ニシテソノ和平條件ノ一  
日モ單ク實現サレンコトヲ要求シ、  
只兄弟ハ日支問題ハ單獨解決シ得ルモノト思惟ス。・（以下中略）  
吾人ハヨク聽クトコロナルカ「全面和平ハ未タ實現シ得サルヲ以  
テ凡有ル問題カ條約通り實行出來ヌ先ツ全面和平ヲ實現シ初メテ  
自由平等カ實現シ得一斯種ノ話ハ總テ通用セヌ



時、恰モ中國解放ノタメニ四億同胞カ蹶起スヘキノ時、日支間ノ諸感情關係ヲ東亞民族協同體的思想ニヨツテ清算スルニ務ムヘキカ指導者ノ立場ニ非リシヤ。今何カ故ニ日支問題ヲ提起シ、「中國ハ遂ニ日本ニ依リテ滅亡サレルコトナシト信ス」ト廣言シ「日本カ英米ノ在華權益接收ハ不可能ナリ。何トナレハ、ソレ等ハ活動シ居タルモノニシテ、日本ニソレヲ動かカス資本、商品ナカラサル可カラス云々」ト斷スル必要アリヤ。

然ルニ此ノ胡蘭成氏ノ演説カ望外ニ學生ノ恩德ニ合流シ拍手ヲ得タルハ現代支那青年知識層ノ對日感情ヲ露骨ニ表現セルモノトシテ頗ル不愉快ナル感ヲ待テリ。

此ノ點、樊校長、胡道維法商學院長等モ一脈相通スル傾向アリト諺

言サル。

然ルニ支那ノ參戰ト契機トシテ實施セラレタル治外法權撤廢租界還村等ニ關シテハ相當ニ學生ノ日本觀ヲ變更シ、昨今日本ノ對支政策ノ眞意ヲ了解スルノ言説ヲナス者モ稀ナラス。殊ニ約二割ノ親日的學生ハ他ノ白紙ノ學生ト共ニコノ傾向ニヤヤ向ヒタルモ、約五割ノ反日乃至厭日的學生ハ此ノ不平等條約撤廢ハ支那ノ對日政策ニ於ケル政治的勝利ナリト稱スル。

殊ニ支那參戰ハ日本ノ強制的要求ニヨルモノトシテ、ソノ要求ノ蔭ニ或ヒハ日本國力ノ衰頹アルニ非ルヤト憶測シ、更ニ中國ハ今ヤ全ク平等ノ立場ヨリ日本ト同等ノ資格ヲ以テ各般ノ政治ヲ行ヒ得ルニ至ルトノ自己陶醉ニヨリ對日強硬論ノ聲頭サヘ感ヤラルルニ至レ

要之、支那青年ニ積極的ニ日本政治、軍事、文化、經濟ノ優秀性ヲ知ラシムヘキ諸運動ヲ肝要ナラン

五、結論

以上ノ如ク現中央大學學生ノ複雑ナル思想ヲ言ニシテ盡スナラハ  
「抗戰ハ抗日ヲ意味スルモ和平ハ親日ヲ必シモ意味セス」ノ理論ニ  
ヨツテ解明サルヘク、五割方ノ上述セル對日感ヲ有セル者ハ日本語  
ヲ學ビ日本留學ヲ希望スルト雖モ大部分ハ單ニ自己ノ社會的地位ノ  
獲得ヲ目的トセルモノニシテ一部ノ優秀ナル學生ニアツテハ中國復  
興ノ一石タラントスルモ、總シテ親日ヲ以テ國是ナリト自覺シ、而  
シテコノ念起キタル者稀ナリト云フヘシ。  
支那ノ參戰ヲ契機トシテ學生ノ對日感情ノ變化ハマヤ明白ニナリ同  
時ニ之ヲ機トシテ一切ノ羈絆ヨリ離脱セル完全ナル中央集權國家タ  
ラントスル要求モ又熾烈タリ

主席ノ華北訪問及五色旗禁止、青天白日旗揚揚、華北政務委員會ノ異動等ニヨリ華北ノ特殊性カ暫次否定セラルヘシト憶測シ、最近北支ヨリ歸校セル諸學生中新民會ノ行詰リヘソノ結果トシテ日系會員ヲ十分ノ一ニ減員スト詭言スヘト同會政工作ト共產黨工作トノ比較等ニ關シテ活潑ナル意見ノ交換等アルカ如シ。

斯クテハ從來日本勢力ヘノ憎惡感比較的淺薄ナリシ北支學生ハ中支學生ト共ニ不快ナル傾向ヲ進ルモノト推測シ得ル所ニシテ目下焦眉ノ對策ヲ要スル所ナリ。

#### 指導對策

##### 一、思想善導方策

既ニ一定見ヲ有スルニ至レル學生ノ思想ヲ根本的ニ改革スルコトハ最モ困難ナル所ニシテ、對日感情ノ善導方策ニ關シテハコノ點「ネツクスト。シエネエレーション」ニ重點ヲ擱クヘキコト言ヲ俟タス。

試ミニ現在、小學三年以下ノ生徒ハ大部分祖父孫文、主席汪兆銘ハ知レルモ、蔣介石ヲ知ラス、且ツ日本及日本人ニ對スル恐怖感、憎惡感等毫モナキコトニヨツテモ或ヒハコノ點ニ於テ成功スルナラハ日本對支政策ノ前途ニ大ナル光明アルト豫想シ得ル。

然作ラテ大學生ノ思想對策ニ至ツテハ理論的ニ云ツテ前述セル約五割ノ學生ハ反日並乃至厭日的ニシテ此等ハ自己ノ現況、自己撞着ニ

自棄のトナリ、親日的ナル約二割ノ學生及他ノ三割ノ白紙學生ハ共ニ現在ノ社會狀態乃至ハ現政府ノ人的構成ヲ改革セントノ情熱ニカラルルモ、口外スレハ反政府份子トセラルルヲ恐レテ此又ソノ趨ク所ヲ失ヒ居ル様ナリ。(本學中政治系ヨリ經濟系ヘノ轉系者多シト聞クモノノ現象カ)

然レハ縦ノ線ニ於テ此ノ五割學生ニ和平革命ノ實踐的情熱ヲ與ヘ、善導スルコトコソ緊要ナリ。ソノ目標トスル所ハ不滿ナル現狀、前述セラル後合政治、金權政治ノ打破、即チ彼等ノ叫フ「吾人ハ公平ナル苦痛！合理的苦痛ヲ要求ス！」ノ社會ヲ實現シ得ル可能性ヲ教ヘ、眞ノ三民主義國家建設ノ政治社會革命ヘノ積極工作ヲ開始スルコトナリ。更ニ横ノ線ニ於テ日本及戰爭ニ對スル思想善導方ヲ必スラス。

第一ニ痛感セルハ對日感情、戰爭觀ノ尖鋭サニ比シテ明白ナルハ宣傳工作ノアマリニモ缺如セルコトナリ。思想ノ貧困ナリ。宣傳ハ思想ヲ伴ハスシテハ空虚ナリ。コレ一國文化ノ精隨ヲ傾ケテ宣傳工作ヲ開始スヘキ所以ナリ。學内ニ於ケル學生ノ時局認識ヲ深メシムル指導講座ハ一週一度極度ニ傍觀者の態度タル樊校長ノ精神講座アルノミニシテ、他ハ日々ノ新聞ニヨルノミナリ。故ニ、一般學生間ニハ「ニュース」ノ缺乏ヨリ臆測謠言流行スル様ナレハココニ積極的宣傳工作ノ「ポイント」ヲ置クヘキナリ。

其ノ具體的目標トシテハ第一ニ重慶側ノ生活狀況、戰爭狀況、ソノ見透シ様ニ蔣介石トノ和平交渉經過等ヲ中心トシ、第二ニ抗日厭日

者流ヲ問ヘス日本ノ實力ヲ認メ、コレヲ知ラントスル知識慾旺ナレハ、コレヲ利用シテ日本紹介ヲ開始スヘキナリ。  
具體的方法トシテハ講演會、座談會等ノ開催ハ勿論、學生ノ享樂的性情ヲ利用シテ「音樂會」「日本レコード・コンサート」「映畫」「ニュース」文化映畫ヨリモ劇物ノ中ニ時局感ヲ含メタルモノヲ可トス)

「日本ノ夕」「話劇大會」等、(特ニ日本映畫ノ紹介ハ二年半以前專報道部ニテ行ヒ效果大ナリト聞ク)。

更ニ學究的部面ヲ通シテハ「日本ニ關スル學術研究懸賞論文ノ募集」「上記論文當選者或ヒハ優秀學生ノ官費留學、見學」「俘虜收容所

ノ團體見學及感想文發表」等モ良策ナリ

茲ニ注意スヘキハ日本鼓吹ニ過サルコトナリ。卑屈ナル民族的劣敗感ノ是正ハ對象ノ轉換ヲ必要トス。故ニ英米乃至重慶政權ノ舊惡ヲ露骨ニ暴露スルコトヲ必要トス。中國侵略ノ意圖ナキコトハ南方軍政狀況トノ比較ニヨル解明カ最モ效果アル如キナリ。更ニ日本ノ大陸政策ヲ八紘一字ノ精神トシテ説明シ、滿洲ヲ獨立國トシテ謳歌スルコト等ハ理解不能ナルナリ。

## 二、生活指導方策

生活指導ハ約六百ニ亘ル寄宿生ヲ組織シ強固ナル指導體系ヲ設立スヘキコト肝要ナリ。ソノタメニハ學内ニ良キ指導者ヲ得ルコトニシ

テ獎校長ノ如キハ學生ノ信賴ナクソノ任ニ非ス、適當ナル人ヲ得テ  
中心組織ヲ結成シ、コノ組織ヲ通シテ働キカクルコトヲ必要トス。  
新國民運動等アルモ何等積極的運動ナケレハ今少シ嚴格ナル規律生  
活ヲ行ハシムルヲ要ス。要スルニ良キ指導者ノ缺如ハ學校生活ノミ  
ナラス新國民運動、清郷工作ノ全部面ニ現出セルモノニシテ新生活  
運動ノ指導者ヲ推唱シ、新國民運動ヲ批評シテ高價ナル新國民運動  
服ヲ着用スル事ヲ以テ足ルモノニ非ストノ所論旺ンナリ。  
學内風紀ニ至ツテハ寄宿生ハ然ラサルカ如キモ通學生ノ風紀ハ至極  
ク悪ク、殊ニ男女共學制度ハ學生ニ向學ノ志ヲ失ナハシメ、大學ヲ  
シテ宛然一個ノ「交際クラブ」ノ觀ヲ呈セシメ居ル現状ナリ。現行

中ノ歐米の男女共學制ハ社會、歴史ノ基礎力之ヲ受クルニ至リ居ラ  
サル支那ニ於テ正ニ時代ノ畸型ナリトモ云フヘク男女大學ノ獨立ト  
女子大學課目ノ變更ニヨル「女子トシテノ生キ方」ヲ訓育スルノ要  
アリト認メラル。

要スルニ多分ニ歐米の色彩アル學園ヲ授業ニ、學内生活ニ、思想ニ  
組織生活ヲ行ハシメ良指導者ヲ得ルコトニヨリ質實剛健ナル東洋的  
性格ニ一變セシメルコトヲ必要トス。中央大學ノミハ日本の色彩ヲ  
加ヘス、支那的ナルモノヲ殘スヘシトスル所論ハ中央大學ハ舊態依  
然歐米の學風ヲ維持シテ可ナリトノ結論ニハ至ラサルカ故ナリ。

和平革命ハ戦闘トツレヨリモ重大ナル思潮ノ奔流テアル。汪主  
席ノ和平運動ノ尖兵トシテ、如何ニコレヲ訓練シ、組織シ、活  
動セシムルヤハ和平運動ノ將來ヲトスルモノナリ。蔣介石ノ黃  
滄軍官學校ヨリモ更ニ勝レタル革命思潮ノ推進力ヲコロノ若キ學  
生ノ中カラ育マレンコトヲ衷心ヨリ望ミツツ。

十八年二月末日

I-0348

